

## 1 指導概要

教科		科目		
地歴		世界史探究	単位数：3単位	
指導目標：社会的事象の歴史的な見方・考え方を働かせ、課題を追究したり解決したりする活動を通して、広い視野に立ち、グローバル化する国際社会に主体的に生きる平和で民主的な国家及び社会の有為な形成者に必要な公民としての資質・能力を育成することを目指す。				
メディア視聴	あり	60%	教科書	『世界史探究』東京書籍
スクーリング	1単位時間×3回	合格時間数8時間以上	学習図書	自校作成の教材資料を使用
レポート	全9回	合格枚数9枚	副教材	なし
試験	あり	試験評価割合70%	評定	100点法5段階評定
回	高校通信教育講座 (単元・学習内容)	レポート (締切期日)	スクーリング (日程と内容)	
	古代文明の出現 1 人類の誕生 2 古代オリエントとエーゲ海地域 3 アジアの古代文明 西アジアと地中海周辺 1 古代オリエントの統一 2 古代ギリシアとヘレニズム 3 ローマ帝国と地中海世界	第1回  (4/30)	第1回	世界史のスタートとして、人類の誕生から順を追って古代文明の説明を行う。特に、ギリシアなどの優れた文明を人類が作り出していたことから、歴史は昔のことをただ単に知るのではなく、過去から学ぶ学問であることを知る。
	南アジア 1 南アジアにおける国家の形成 2 インド世界の形成 東南アジア 1 海の道の形成と東南アジア 東アジアと中央ユーラシア 1 古代帝国の誕生 2 中国の分裂と多様化 3 草原地帯のトルコ化とイスラーム化	第2回  (5/15)		ヨーロッパだけではなく、アジア地域も優れた文明が育っていたことを知る。また、ヨーロッパと南アジアの融合を学ぶ。 中国においては既に戦国時代が始まっており、その歴史の深さを知る。
	イスラーム世界 1 イスラーム世界の発展 2 イスラーム文明 中世ヨーロッパ 1 中世ヨーロッパの再編 2 中世西ヨーロッパ世界の成熟 3 ルネサンス	第3回  (5/30)		アフリカ含め、イスラームが広がっていく過程を学ぶ。イスラーム教はネガティブなイメージを持っている生徒もいるかもしれないが、歴史的にみると合理的で弾力的なものであることを学ぶ。また、ルネサンスという素晴らしい時代もイスラームとの接触があって生まれたものであることを理解する。

中華世界の変容とモンゴル帝国 1 モンゴル帝国の成立		同時期にアジアでは世界史でも最大勢力を誇った強大な帝国が成立したことを確認する。この帝国がヨーロッパだけではなく日本にも強い影響を与えたことを理解する。
インド洋海域世界の発展と東南アジア 1 海と陸の結合 大交易時代と世界の一体化 1 ポルトガルのアジア進出 2 明と日本・朝鮮の動向 3 一体化に向かう世界 4 大交易時代の世界	第4回  (6/15)	授業の最初では、イスラーム世界がインドに広がっていく中で、インド洋海域に交易が進んだことを確認する。 次第にヨーロッパからインドへ交易を求める動きが活発となり、大航海時代による世界の一体化の流れを確認する。 ここでは新大陸であるアメリカ大陸へのヨーロッパの進出が原住民である人々へ与えた影響も理解し、今日的なアメリカ社会の複雑な背景の一端を確認する。
ユーラシア諸帝国の繁栄 1 中央アジアと西アジアの繁栄 2 インドの大国 - ムガル帝国 3 清と東アジア 主権国家体制の形成と地球規模での交易の拡大 1 主権国家群の形成と宗教改革 2 オランダの繁栄と英仏の国家形成 3 商業派遣と植民地建設 4 啓蒙専制国家の発展 5 近世ヨーロッパの社会と文化	第5回  (6/30)	第2回 中央アジアにおけるイスラーム王朝の興亡を学び、最終的には強大な帝国であるオスマン帝国が成立したことを確認する。 中国においては清が成立し、独自の政治体制を確立したことを確認する。また、ロシアやヨーロッパ、アジアとの交易において活躍したことを確認する。 次に、ヨーロッパにおいては宗教改革が広がり、各地域に大きな変化があったことを確認する。また、これが現在につながる国民の様々な権利の成立につながったことを確認する。特に主権国家の成立や国際法の成立は重要な点である。 ・
国民国家と近代社会の形成 1 産業革命と工業化 2 アメリカ合衆国とラテンアメリカ諸国の独立 3 フランス革命とウィーン体制 4 自由主義の台頭と新しい革命の波 5 19世紀後半のヨーロッパ諸国 6 南北アメリカの発展	第6回  (7/15)	産業革命という歴史上の大きな転換点を確認する。また、その後の市民革命、独立革命の歴史を学ぶことで今日の社会体制と人権の背景を知る。欧米においては近代社会の成熟が早く、これが現在にも強い影響を及ぼしていることを知る。
世界市場の形成とアジア諸国の変容 1 産業資本主義の世界への波及と欧米社会 2 西アジアの危機と改革の始まり 3 南アジア・東南アジアの植民地化 4 清における開港の限界と二つのアヘン	第7回  (7/30)	今日の日本を含む多くの国で採用されている資本主義の古典的な概念とその影響を学ぶ。また、貿易や為替においても拡大があったことを知る。 また、資本主義の発展に伴って、アフリカやアジア地域に対する植民地化が進み、これが後の

<p>戦争 アジア・アフリカ諸国の統治再編と世界分割の進行</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1 列強の覇権争い</li> <li>2 西アジア・中央アジアの変革</li> <li>3 南アジア・東南アジアの民族再編</li> <li>4 清の体制転換と近代国家の建設</li> </ol>		第3回	<p>大きな戦争への火種となることを知る。 中国においては、アヘン戦争によって大きな転換を迎えており、欧米列強によって分割統治されていったことを知る。これには日本も強い影響があったことも知れると良い。中国ではこうした状況から国内での革命の動きが始まったことを知る。</p>
<p>第一次世界大戦の展開と諸地域の変容</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1 第一次世界大戦</li> <li>2 ヴェルサイユ体制と国際秩序</li> <li>3 大戦後のアメリカ合衆国とヨーロッパ</li> <li>4 アジア・アフリカでの国家形成の動き</li> </ol> <p>国際協調体制の動揺と第二次世界大戦</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1 世界恐慌と政治・経済の変容</li> <li>2 国際協調体制の動揺</li> <li>3 第二次世界大戦の開戦と展開</li> </ol>	<p>第8回  (8/30)</p>		<p>第一次世界大戦という、それまでにない規模の戦争について知る。これは現在にもつながる世界の課題の原因ともなっている重要な戦争である。また、終結後のヴェルサイユ体制や国際連盟の成立など、国際社会の努力と失敗についても確認する。 その後の刺激がありつつも、平和を維持しようとしていたところに、世界恐慌という重大な転換点から、各国が対応に追われる中で、再び世界大戦がはじまってしまったことを知る。第二次世界大戦の背景や、展開を知ることは今後の社会を生きる上で、大きな教訓となると考えられる。</p>
<p>第二次世界大戦と戦後の東アジア</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1 アジア・太平洋戦争と日本の敗戦</li> <li>2 帝国の解体と分断国家の形成</li> <li>3 アジア諸国の独立と脱植民地化</li> <li>4 朝鮮戦争と東アジアの「冷戦」</li> </ol> <p>冷戦の世界化と国際制度</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1 冷戦と政治・経済秩序</li> <li>2 アジア・アフリカ諸国の独立と第三勢力</li> <li>3 平和共存と社会主義圏の多様化</li> </ol> <p>冷戦の変容・終結と経済のグローバル化</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1 アメリカ合衆国の覇権の動揺と冷戦の変容</li> <li>2 冷戦の変容と世界の諸地域</li> <li>3 冷戦の終結とその後の世界</li> <li>4 アメリカ合衆国の復調とグローバル化</li> </ol> <p>21世紀の地球的課題と人類社会</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1 グローバル社会化にともなう世界の変容</li> <li>2 地球的課題</li> <li>3 新たな秩序変容</li> </ol>	<p>第9回  (9/30)</p> <p>提出期限  (11/30)</p> <p>※最終締め切り  (1/20)</p>		<p>太平洋戦争で日本が敗戦したことを確認する。ここでは、戦争に至る背景や当時の軍部の暴走などを理解することで、日本の平和に対する姿勢を確認する。また、戦後の日本に着いても理解する。 第二次大戦が終了する頃、アメリカとソ連による冷戦がはじまったことを理解する。冷戦によって各地が分断され、特に朝鮮半島では現在の勧告と北朝鮮に分断されたことを知る。 その後、冷戦自体も次第に変わっていき、一時は緊張緩和が起きたことを知る。そして、アメリカもソ連も互いに無理が重なっていったことを確認し、冷戦の終結に至る。冷戦が終結したのはそれほど古いことではないということを知り、これが現在にも多くの課題を残していることを知る。 21世紀の現在も地球には多くの課題が残っており、その多くは学習してきた歴史的な背景があることを確認する。ニュースなどを見た際に、なぜこうした問題が</p>

				起きているかを少しでも理解できれば、これから社会に出る一員として必要な知識を得られる。
--	--	--	--	---

## 2 評価の観点

知識・技能	世界の歴史の大きな枠組みと展開に関わる諸事象について、地理的条件や日本の歴史と関連付けながら理解するとともに、諸資料から世界の歴史に関する様々な情報を適切かつ効果的に調べまとめる技能を身に付けるようにする。
思考・判断・表現	世界の歴史の大きな枠組みと展開に関わる事象の意味や意義、特色などを、時期や年代、推移、比較、相互の関連や現代世界とのつながりなどに着目して、概念などを活用して多面的・多角的に考察したり、歴史に見られる課題を把握し解決を視野に入れて構想したりする力や、考察、構想したことを効果的に説明したり、それらを基に議論したりする力を養う。
主体的に学習に取り組む態度	世界の歴史の大きな枠組みと展開に関わる諸事象について、よりよい社会の実現を視野に課題を主体的に探究しようとする態度を養うとともに、多面的・多角的な考察や深い理解を通して涵養される日本国民としての自覚、我が国の歴史に対する愛情、他国や他国の文化を尊重することの大切さについての自覚などを深める。

## 3 評価の方法

スクーリングへの出席（取り組む姿勢）、レポートの提出（レポートの内容）、試験結果を総合的に判断し、評価します。

## 4 担当者からのメッセージ

スクーリングへの出席（取り組む姿勢）、レポートの提出（レポートの内容）、試験結果を総合的に判断し、評価します。面接指導だけで教科書の全範囲を解説することは難しく、説明のスピードも速くなります。教科書を読み、各回の範囲を予習し、レポートをできるだけ完成させた上で面接指導にのぞむことを推奨します。分からないところは、教科担任に聞いてみるのも良いです。